



特別
ル4
3770
2



凡 4
3770
卷 2

京師二重城為美二角路

浮陀地

二丁目

古宮城

四丁目

古高地

付右院

六丁目

蹴宮地

九丁目

原老地

十一丁目

古塔地

十二丁目

古戰場

十五丁目

武殿地

廿五丁目

昭和二十六年
二月十三日
購米

古宅地

廿九丁目

別荘地

廿五丁目

古巻地

廿八丁目

所信地

廿十丁目

弁親地

廿三丁目

假山地

廿五丁目

勝京地

廿七丁目

京羽三手織為表二

京羽三手織為表二

降川地

日傍坂

東中山を因社社前
傳云あり河輪渡り
おかりし云臘月除ねと正月
十九日夜清後の時兼宿の人た
いすつとつわらうる係り
坂とをい付まう西元とす

中屋敷

上野原村山西北地
わがし家後大の林坂

て其現地あり毎に正月社
丙の同社ありありわらま
らひて社司の人村あり
とありありあひがうとけし
まは其まかつわがし
社社系れ始ありい春の社と

いすししてまわりの地をうらひ
社よかきるるむら

浄護社

浄護社の地ありけり昔の月
午の初使ありて常礼あり
世人の霊まつるに云れり
法蓮の社と号するありて
後那社勢未羽ぐるまありて
祇園跡ふありひんありて
のく社と号するありて
志んせんと下と聖の社
内は社も同く遺言あり

瓜生山

白川の南津守村の上
ありて瓜生山と号す
瓜生山と号するありて
瓜生山と号するありて
瓜生山と号するありて

山ありて石上にありて
管と号するありて
かむと号するありて
入て社と号するありて
瓜生山と号するありて

牛王寺殿

祇園の南津守村の上
ありて牛王寺と号す
ありて牛王寺と号す
ありて牛王寺と号す
ありて牛王寺と号す

神倉社

下栗田の上ありて
ありて神倉と号す
ありて神倉と号す
ありて神倉と号す
ありて神倉と号す

人ありて時神池と云ふじりて
 此木は角かまて物清く優美
 け山より山と号して山下に其を
 つ早あまむかたり成神明貴云
三峯 ありて上はありて言ふに
けりかると是輪の神
 始て出現波登れ不之俗にけり
 佛檀と云秋向の杖今よりあり
 乙酉月五日社家と云くは不
 疑海と云ふと山守ありと云
荒子山 嵯峨北西南にあり申
定好松の尾法師の記云
元徳和洞二年四月土目山賊
山田此名荒子山の下に法師と云
け地裏尾の神と云て傳記
だり不あり
春日山 海山八瀬の里にあり
春日大明神は山と云

本現と云ふ又同不は後より
 是又ま同れ神と云くは石上
 傳記ありと云傳人あり
新の松 山中神王堂北前あり
相傳友神池にて云
初雪ゆり時かたりけは松の上
才現あると云けは不は松を
梅院を月初雪下にありけ
け松の下に山依と云ふあり
滝石 下山田の極の池あり
傳言松尾之の神けり
本現ありて延願上人の流法と
ありて又西芳まの池の東に
新の石ありの神出現と云現
殿神法と云とありと云ふ
ありと云ふ
歌文 山崎のあり清和天皇
貞観元年乙卯南都大

寺の神を教らざるの國定院の
まゝで祀祀よりして之に
後には八幡文の山崎の玉姫と出
現の地なり同率又の若衆能
よよつてぬくひ男山石の
遷りて歌えの神言ふ新教
の院ありて追世律院したる
山門の表に武内大臣の苗裔

古宮塚

今に至るまで
或は作と書
隨國なりと書史云
乃高皇原の
あひまひ
とありて
此の勸壇入珠の

第國宮城

先して作神
より丹波
作か去
郡此地
一竹
早以
とて
対
山の東南

と墨宮城

西
あり
己
は
は
内裏

泰仁宮城

山
泰仁

天武天皇十二年八月倭國
 より使者あり大神皇太子を帶し
 少の還御し美法宮の國とて
 南都に梅ありははれふ初とて
 城の守をたらしに梅の守とて
 是と久雨れ初と林又宮の
 郡山神の御大宅村とて此
 素とてあり俗に内裏とて云
 智武天皇天智十二年橋の
 是くはむぢ人のむとて郡と
 山城の國山階恭仁に歸ふと
 すとて則恭仁のむとて郡と
 志とて久雨恭仁同名とて
 相承宮は郡とて素とてのむ
 是れ是れなる事とて云
 万葉集に額田王
 菟乃が又清宮に
 ありとて是れ菟乃の御
 宮治宮城

此は美々雅房子の孫神天白山子
 子にして宮治の皇子とて
 不末のむとてあはれとて
 宮治のむとてあはれとて
 ありとて

古史地 并古院

京極殿 傳を御行北南系
 西南二町ありとて

今此古史者所通ありとて
 西入道乃長は家ありて
 後藤院 後藤院三代之帝
 是れに法延とてありとて
 乃宅宮に人延生は是とて
 伊傳とて云

花院 近畿東南の國院
 東一町ありとて東一條とて

式正の貞保親王は家貞行公と
と傳頌して小一條の家に傳承
東家と号す此泉院の時東家
此坊とある花山院傳承

二條院 二条の小路の東天曆每
此鎮下なり

東三條 四條院沖 延生此家又
室の親此家なり

二条の南の二町乃昌忠仁此
家貞傳承大入道傳承

亭子院 七条坊内の西此洞院
此西二町 寛平法皇此

世尊寺 一系此小舎の西此
此東にあり貞純親王乃

一條院 一系此南太夫の東二町乃
昌傳承此家又傳承

大信乃光云乃家なり

桃園 世尊寺此南保光の家
此成郷 傳承

深殿 正親所此小系坊の西二町
此乃忠仁此家或云

枇杷殿 旧此深殿、清和院同なり
迎講乃南家所のひきと
或云世尊寺南東洞院

乃西之町乃大倉仲平公此宅にて
照宣云乃家なり

鷹の首殿 本御所の南乃此此坊の
東迄一位倫子此家なり

陽成院 大炊此御所の南西の洞院
乃西陽成院此伝承の也

小野宮 大炊の御所の南に寸草の
み 惟喬親王此家

定教云これと傳承 又此傳承
一は云ふ

高陽門 中津川の南堤にあり
東南二所西山所より海に

聖陽親王の家あり

法興院 二条北条松の東にあり
ひつ二条と号す二条

の宮白土にあり

二條殿 二条北条の同院の
入道大相宗長を造

二条北条の傳領と

鴨院 二条の南宮所あり
而も二所あり或は鴨井

二條の堀川の院にあり
いふ一井あり鴨つひに梅と云

蠟松殿 姉と弟は堀川のひ
橋の逸飛の家居あり

山井殿 三條坊門の北条松の
悪不と云三位承教つれ

山井の家つ通つたつた

西三條 三條の北条産右京松
大長は同若百花寺と号す

先づ北条よ属と

南院 四条北条生乃子
先忠親王の家

西院 四条北条西大まのひ
橋乃大右の法と云

四條文 四条の南西に同院あり
盛義と云家又四条の大

納云公任卿の家あり

釣殿院 二条北条東の同院の
六條の池と号す 光孝

天皇北条平淳子内親王に
殿しぬまふあり

六條園裏 二条北条東の同院あり
高余三所方あり地

中六條院 六条北条東の同院あり
寛平帝北条平定

千種友

六条北坂の南東洞院
此の寺に中務卿具平親

王に奉りて傳昌傳成とて

中院

六条の北と丸の南
源光院の南東に在り

浄子元

三條坊門の南に在り
兼光親王の御所

東東院

六条坊門の南に在り
龍王寺の御所

南洞院

六条坊門の南に在り
西にあり離宮同室

所此の寺に在り

小一條

進藤の南洞院の南に在り
師平の御所

押小路

或は三條坊門の南に在り
光園の御所

滋野井

中北坊門の西に在り
滋野の御所

北院

揚梅の南に在り
東にあり

弘善院

八条の南東に在り
大納言の御所

離宮地

御所

西にあり

此の地は... 推古天皇の御所... 弘法大師の御所... 聖德太子の御所... 今もその地は...

秋山

上巻の北南にありけり
 毛の角のほらに融えけり
 しまむらひの京庭小花赤く金
 芝と色し西野小根樹と極
 庭と紫し南方暑氣とけ
 小方雪れありたよりあそび
 あかきあり今田畑よりわたり
 山よりけり新しきまき葉よも
 津去り念のゆるげきと

池田

大佛蓮花玉院の南かこり
 町北東南にありけり
 白川法皇此融え法皇の金千畝
 北池のありし今けり田とあ
 依りし池田と云今法皇の法皇堂
 北前に池ありけり畝北池と
 表とるものあり

田中法皇

大佛蓮花玉院の南かこり
 町北東南にありけり
 名村

園禪

の法皇此融えのありけり
 今に水石此融えけり
 旧記云文永十二年
 龜山院此位と建治
 帝にゆづり太と白と称しは地乃
 山永紹翁と色し今弘安年中
 融えとけり此に造りしあり

花園

妙心寺此地にありけり
 元ハ元大長清永其
 此地ありて園中けりけり
 とくへと色し依りし花園と寺
 花園法皇ぬくは地の風系と
 色しありけりありけり
 法水ありけりありけり
 法皇今此花園村にありけり
 禅法ありけりありけり
 関山法皇禪師と清して後識し
 るしありけりありけり

仁和寺

寛平法皇の法皇宮
此江光がわらわら
光孝天皇の仁和寺
光孝天皇の仁和寺
光孝天皇の仁和寺

多羅院

光孝天皇の仁和寺
光孝天皇の仁和寺
光孝天皇の仁和寺

大覚寺

光孝天皇の仁和寺
光孝天皇の仁和寺
光孝天皇の仁和寺

舊大覚寺

光孝天皇の仁和寺
光孝天皇の仁和寺
光孝天皇の仁和寺

立筒元

光孝天皇の仁和寺
光孝天皇の仁和寺
光孝天皇の仁和寺

修学院

光孝天皇の仁和寺
光孝天皇の仁和寺
光孝天皇の仁和寺

修学院

花山寺

花山はありて式は甚だ
と号し又東山寺と云

花山北院いそくに禁廟と云せ
ぬすしひをばらにありしきり
近世妙心寺に此寺なり和尙無其心
山崎実徳社北院南
観音寺 一ありて此寺の観音あり

聖武天皇は此山依佛なり其意を
力仰せりて後其時院教を成
勢ありて又北院に観音堂あり
寺は其意を承けり毎二月廿
二月は此山北院沖立口水で漱の
沖禱ありて法事と云ふは
寺今移す所なりありて観音と
見し時ハ山城の國觀る者此寺
に志する時ハ山城の國觀る者
社北院の南ハ此寺より北ハ山城
の山は屬するものなり

泉橋寺

山城本流ありて其
善堂障の南基は天平

十三の初基本流川より橋と云
て時供養ありと終らるなり
智長 孝謙 聖帝此寺の地
ありて今ハ律院なり

龍王寺

山城本流ありて
後引者ハ國基ハ

一て此寺の跡勅けりて其
云云に於て四坊ありて新院
多ノ同院極楽院智徳院を
カクし此寺を中越智叢
澄舞真と云ふ別名ありて
又云は住しありて東寺道賢
又云は住しありて人乃住ありて
貴山ハ此寺ハ天照太神令在
岩戸分此三社ハ同谷ありて
今も貴山ハ此寺ハ現る所

しつて乃賢と目弄るといふ
の足登れ目弄是之なるて
伏見の院の幸あり今も塔
をい院の庭立ありて中を
せ深かり

法令剛院

仁和の南にあり景
和五年三月の院の

太上天皇の御入内清涼殿に
神がくびれ世の山を
て水石をせしむ有る
双石の石壇に五位の下と
けり小皇子冬双石の池水
をも群とせし車駕の池の
竹寺ありて勢とあり
あり東境には法令剛院の
の方にありと云ふ内
れありと云ふ今池と村
は院の南にありと云ふ

天智天皇年中
くわくし真
唐隆もく相
しく寺退
再興し法令剛院と号す
の律院と号す今東山
解ちり属すと

と福寺

梅はありと云ふ
と云ふ元真聖尼の創建

なり天智天皇
記ありわら
し入て古林
に院乃い
と云ふ是に
解ありと云
尚小海傍
法要と云

辰駒の報贖あり同山路と
多のし二夏又勅額ありける
今南郷古に属し弘治四年
月廿三日三好修理大夫長春の男
純成も交々志がくいかに
こは京小の北の宅に梅云

法勝寺

舊名法勝村あり天台
浄土なり使に賞佩大

思慮全非寺と号す善提坊
僧部辨賞ありためて法勝と

たむ善曆元年十二月十八日堂
成祀と白川の院にあり付責
あり則勅額あり中興此銀

慈意和尚あり是東坂中
教も建立此傳あり中古い

法勝寺と法勝寺と延徳寺
法勝寺と法勝寺と延徳寺
法勝寺と法勝寺と延徳寺

東坂中此西坂中ありけり
法勝寺ありと事と通

寶徳院

古仁和此東法勝寺
此西南あり崇徳

帝長承元年十月七日事
こは同法今にあり

康苑寺

本中中あり後永平
戊子三月八日康苑院

後小松院此清寺と傳
此地二箇目の名あり

和名此會あり相問
公園白の姓にあり

世に義淑と名し後相
多と持ありと五位あり

家と城一細川富山を
ありんと依りて手

きたるひ太上天
まはるこ後宅地

想國師と開祖と一三石此の
領と云々今此康苑寺を
迎世光源院義種云々中周高
もこの後と云々世に信者の出云
義種云々事あるの阿周高も義
照山西雲と号せり

東寺

延元二年五月將軍
安苑云々云々
東寺の長と初め平院
清幸が堂と云々
△は外伐此 主上世明此内法
社への新寺を以て王代一人の書に
池云々

古城地

山城相承此郡
上西此地あり

嵐山城

今にあり真の西雲地あり
嵐城又井川の西の上
坂橋本院永に云々六
月細川右京大夫政元此城を
西又六雲地と云々
中へ九条園白雲地を以て九師
院之ありと云々

靈山城

東山雲山に此山
上にあり此所を
普賢院義教云々
中へ九師院を以て九師
院之ありと云々

山崎城

山崎天王山此山に
あり文徳二王
是を城と云々
其土守上皇も入道浦上
本也

京師にゆきと云ふ山十有二月
三日長尾景春は下野に陣を
置一戦して明智軍を内上
の九月秀吉は下野に陣を
置一戦して明智軍を内上
の九月秀吉は下野に陣を
置一戦して明智軍を内上
の九月秀吉は下野に陣を
置一戦して明智軍を内上

勝軍之城記

依、本家頼我、時義、後、
城と申す、法中、目、あり、直、
害、の、地、なり、又、水、深、を、
頼、公、勝、軍、山、に、城、を、入、
年、二、月、万、石、院、我、
晴、三、細、川、勝、九、依、本、定、村、
と、頼、公、城、と、い、ひ、し、り、
石、壁、を

如音之城記

西は勝軍の村あり
文明二年十月山崎
先づ、不、い、城、と、執、事、居、
十、年、八、月、廿、九、日、依、公、
て、は、株、と、頼、公、城、主、
こ、し、と、云、は、は、智、目、向、
七、勝、敗、は、は、茶、を、と、
小、白、川、に、あり

勝軍之城記

西は勝軍の村あり
文明二年十月山崎
先づ、不、い、城、と、執、事、居、
十、年、八、月、廿、九、日、依、公、
て、は、株、と、頼、公、城、主、
こ、し、と、云、は、は、智、目、向、
七、勝、敗、は、は、茶、を、と、
小、白、川、に、あり

小白川城記

又、万、石、院、義、晴、公、も、又、家、
時、小、白、川、義、賢、入、為、永、
と、三、率、一、七、に、割、り、
て、日、し、ら、城、中、防、事、
城、を、焼、て、坂、中、に、走、り、
院、義、頼、公、も、志、を、
恒、た、ま、し、也

万松院城址 慈照寺北、其南尾

はらに城と飛来居ありんはあまの
かき事、流はわ小江別定太にて
覺去しうふ志しごとく今いす
城地の辺跡也と

上野城址 西は長林足村の東
又二村あり南と下

上野と云ふは上上野と云ふは下城
池ありこれ中世を断るは長林
氏にあり居たりふかゆは西の
是三十人入居公方森澤代ゆ
かり今もつらに二三家あり

小泉城址 梅原のふち、横堀の
乃東南にあわらて

意はの乱後云方森澤代ゆは
おとらふは公方家譜代千二
の同ちりふありは細川和井

小泉よりとらふ跡あり細川和井
も西乃界よりとらふ小泉はけり
住まると云

今村城址 泉瀬のふち、西伏見
道は東南田畑の中あり中古今

村氏のあり居居のけりりま
齋今に居ありと云

廣野城址 松乃尾のを隣井戸
此かきりいあり人の

株柳と云ふ居居せり事あり
まると云

古城跡 東は入倉山北東南山
よにありつぎの世に訊

人けりり城と云ふ事あり
古跡院北西にあり

古城址 細川晴國に命いし
て西乃界の住人長村と市とる者

け城とまじりて又上石原今此を祥
院の地カワルにけきとて古城の地
三ヶ所あり人此住せり未だ

繁系城江

天正十三の閏八月
其馬券を南次

一五条より二条まで在る堀川西の
内野と申せりて城地とて繁系
と号し多きなり
初者ありてはけ城と開白秀
次と申せり夫より又文脈のこし
末七月十五日秀次云高野山にて
陣あるのは取在末方の城横成ハ
つ麻戸に散散して江原
とて今此堀川通日書に在る
らくの跡外にのりたり
北の星田甲斐も入る如水の懸
此あり江原の町に在る
改められたり

伏見城江

乃城と秀次云にあり

あして後伏見各所の内も跡を
も坊を後河守水神也と助石尾
貞右兵衛末に令して伏見中城と
築あり其長五ふけ城潰て
後やういひ修補もありたり
此の今極後後此城中にあり
不況なり其山の内今に法神源
正曲輪石田治部とていふ
あしこのこも

二條城

他之後冷泉院
義孝の始とて築

云永禄十二年四月西陽院義昭
公本國をたはりて時二好一族
増起し京師に侵入本國を
とてわかに義昭とあり

ビシクとも退却を以時
藏田信長も尾州攻め其城
にありけりしと守りてしとき
と海に義昭公も揚子其事
と變りあひて其内近國の
士に命じて二條の城と陣營
一月月後昭公におもひに
五月二條の城を攻め其城に
まゝも是今も余通二條の
と天守町も号と古二條の
城に多かりし又これ二條
の御城公も主宣七人に修
造ありし又後水尾院寛永
元年二條の城を普請同二
の事より忠公修めしなり
しに万世に遺基太平公極
法人にありきたすまら
あはれなり

古戰場

大渡

延元元年二月三日
大軍と備へしに
義貞と山崎大渡りに合戦し未
勝負も世に河小細川は
赤松義賢も助と責て山崎
よ入子義助は兵散去と
ありしとて敵軍は帝初とら
しむる人々もあひて軍
とにありしとて帝
比叡山よりあり

内野

徳元元年三月十日
赤松義則も時應也中
未松義則も時應也中
して大に敵を討つる
て勝つるなりしとて
は公出陣ありしとて

手先焼くして相殺氏信賢守
伶範も子範海兵衛と斬り
首とめりわらう

沖靈

後去沖門院無仁元三月
十八日右京東金細川勝元
國陣法中而に合戦とい時西矢
今入寮東金町水沖矢は南
多二条にわらわ公家武家大小の
民家三万余守りわらわも院水
美干焼焚く見るとは是れ寮食裁
と云

延辱

織田信長公越前守
合戦とい日山に
偽信約念に後堂しる事信長
大寺にわらわの坊舎としり焼
掃俵後と過致しる事也

初勝

無仁元大内のお軍と
初勝といた起り時小

大敵佛圖二対し焼失とい今下西番
は排明の社北西の地旧江邊世
真を京安井俵正初勝とい東山
鼓院北門より再興せり

百の橋

ちの河通二股川の未東西
小切りし橋かわりし西
寶清院北岸の町百の橋とい
右見にいり物屋といり百の人の
けもに位しや世板橋といありあ
て石をとりかへ無仁年中おを
細川といは橋といるごとくお殺す
おなかりり又永正の八月三日
院水のもち糖と細川政之が院
香西又といはりて毎々合戦

東山

天正六年四月朔日細川
右京大夫晴元四圍に軍兵
とし軍一東山に陣とい時陣
直女堂藤々谷放火とい七月又

お國志に陳とて依る本六角定家
白洲此軍兵とひきとてして白
川とてわがこむ十九日此の軍
家後院公城中に火とてけり別
坂中よお奔りしと云

四條繩

貞和五年四月三日
執事高直公を
志補三つと合致とて心りか
適軍とてやわり昨とてはあや
付客とて人せりしに流し
死とて依りし昨とては
免て吉也小致向と

神南

文和四年二月足利義詮
と山居父子宗將神南に相
殺はけし神南の宗將は
乃と殺切とていひま
と昨氏府とてあつとて
松浦の宗とていひとて

船志山

在仁正一色元京大を
山名相模もけし山とて

又後柏原院永正公二月細川
助政賢四國并三本國北平集
の軍義邦此居しあつとて
とせりんこと刻尹と小軍は
勝をうとて成とてりて丹波
志りてくは対大内助刻尹と
いふ政賢は海とて義邦とて
丹波の國とて大軍とて
とわ船志山とて陳とて大内
とていひけりしは小政賢も
とて後義邦とて高直とて
居し九月は海とてりし又
館とて入りしとて大内助
室所とていひしとて

威と天下にゆきし法入見とつて
たむむ小丹波軍團此領に竹乃
内太史丈内女愛真とつてほろを
丹波とめて無長とて陳とて大内
五百騎此軍とて平して意いあ
ひ物ふけあふ竹乃内此軍とて
赤死とていふにありし年し
ちちくにはありぬ竹乃内太史は中
こそし赤死とていふ

天正元年七月相軍を所
榎島 宇治まき此時大なる
時織田信長と渡早此城とあひ
別佐和山より船小乗り坂下此城
と燒とつていふとて城とて二条此
所とてわかこむ所とてまの軍
家此者信長とて信長とて信長と
くよとて信長とて此時(母)とて
ゆふ義昭の軍兵大なるにあり

榎川 太永七年物人余考京
都におあり三城と合戦
時河原坂榎川赤死と細川と
かつしつて我て敗れとていふ
本園寺 正親町の院永永一
四月五日相軍義昭と
義城とて時と三好下野とて
巴めつとていふ

東徳寺 け寺より田茶坊門
西此洞院にあり天正
六月二日明智目白と光秀と
小丹波邊山此城よりあつた
とつてわかこむ信長とて放て自害
とて光秀信長とていふとて
秋とていふとていふ時とていふ

榎川 太永七年物人余考京
都におあり三城と合戦
時河原坂榎川赤死と細川と
かつしつて我て敗れとていふ
本園寺 正親町の院永永一
四月五日相軍義昭と
義城とて時と三好下野とて
巴めつとていふ

家内秘教の信長公が
の焦私と来て先夫にわさ

山崎 天正十の六月十三日
先夫の長秀の遺言

戦ふ先秀軍のよきて勝つる
よきりなり秀吉の軍兵と

して又三つかき先秀の世に
事ありきと和入してひそに城

と出坂中にむむく村小栗栖に
むく里人の為よきりなり

智因寺 あり中世京極今出川
は寺あり相國と云

此南に極と近世又田中村の極寺
万巻はかり永正五年五月廿三

日長輝入る希雲と云る先夫
此國にむむのふに出京時と云

は入細川依と本末と合戦と云
ととと大内々た先は敗れ

西京 後花園院文安元年三
月、西に京東西酒麴

賣買の事に行論と云る合戦
放火して時中此社内傳坊

梨る村 此地の南にあり大正三
のまゝ元弘中 後

醍醐天皇の宮軍と云る中
一なる時う海々しくり陰のハ

ケ國の士年二万千余騎と云る
は村の東南にあり山北繁と

作松 本津村の西北にあり月夜
云宗神天皇と云る

恒安表むり人山崩り大和
敵此をさめり人といふ時

天皇の尊と命と云むり戦

去國武垣安と称さるるわさ
かふ者も皆うごし屍骨平地り
溢あふは見えにけりてまふと名付て
羽振はねふ園のこふ今ふあやまりて株の家
と云はけし安さ乃ち卒おそふか
げててあふとてくぬりあふぬいふ
と果くそ禪ぜんと云ふ今れゆめ乃國撞くわ
こふ世かむ俗ぞくこそしてあふ
と云し是こわらへはさるるべし

麻芝

三位親政高命此まのま
にありうひてむほやおことと云
も軍敗ゆり親政はに扇と前
害と後ろ人あふ進して今に
ま此江と跡さるかり又各流
くも毎ごと五月廿日此親政
く苑いん散さんと俗ぞくは兼かね四よ今月
し日親政我死と云繼ついで化くわ十じゅう堂どう

小治湯

宇治橋うぢはし南平なんへい院いんの
依よと水みづ提てい原げんなひふと陳ちんと
小治湯せうぢとうと下したより馬うまにかりけり
見みてりて世よに名なと跡あとしはるる

洗果水

下東田したとうでんにあり丸まる市いち
山やまとあふの商人しょうにん橋はし水みづ表あはに
がひあふまはむむ時ときはふい
系けいと市いちにあり市いちの國くに軍ぐん士し
あてりるにけり京師きやうしよ入いる市いち
ううはあやまわしてけいけいと洗せんとて
ううつこの衣いとほほとてううはひ
洗せん果くわ水すいといふ市いちの果くわ水すい今いまり
あふりし市いちの市いちの果くわ水すいとて
遊あそびし市いちの果くわ水すいの果くわ水すい
あふりし市いちの果くわ水すいの果くわ水すい

真如寺

下山田村あり世に云こ
禰の堂にあり元弘三
の寺檀の恩願蒙り此堂に陳せ
一時は寺に本も千石の燧火
火にたれぬ燧火一石の燧火

光の山寺

井出村にあり東南に
あり今寺はたえて
村にありかろ活業中にも
念乃まの仁親王に山乃あり
も居れぬとく流しをた
あつて覺しあり今也

衣堂

本村にあり三位の中
年此堂に建せし由あり
此者もとらる今にもあり

榎川

源平盛衰記に云源軍
之流しり榎川とあり
一木橋ありと云先にも
いつ川に今此六地は村の川

武館地

源光の屋敷

西原のありあり
小とらり之橋あり
は源光の屋敷あり
も源光の屋敷あり
も源光の屋敷あり
も源光の屋敷あり

源光の屋敷

尾村の門あり
境内あり今も四方に
已傳え源光の屋敷に
此に源光の屋敷あり
源光の屋敷あり

源光の屋敷

紫竹村にあり
寺大源房方あり
源光の屋敷あり

約の誓妻と云ふは、いかにして、
いかにわけて地は、ちき井あり、
三層湯は、井水と汲、
つて、今に、いふ、用、水、号、と、
者、地、と、と、き、の、古、
西、条、い、
平、相、國、清、
平、相、國、清、
平、相、國、清、

平相國清

平相國清は、いかに、
北、河、あ、わ、り、
白、草、花、
都、地、と、
平、相、國、清、

源義朝

源義朝は、いかに、
大、佐、
平、相、國、清、

武藏坊正俊

武藏坊正俊は、いかに、
平、相、國、清、

武藏坊正俊は、いかに、
平、相、國、清、

佐々木忠信

佐々木忠信は、いかに、
平、相、國、清、

六代将軍

六代将軍は、いかに、
平、相、國、清、

息男がわね盛の安達天の
潛幸にあつて西海におもひ
まゝりし時妻女二代といふは
あつたなりと源家二統の日記と
ふがしおしきとていふ人にも大
覚上人二代の命とていふて判發
口しめ妙覺と名を付ぬては發
とつての男とていふ源家又い
とててはわふ六代といふと
時より十八九歳なりといふ

源氏約軍殿記

たうぢち 傳云いふ一万里
小松二条北園に
あわさるははらまきなりはれに
とつとせとせおちり所とて
亦八幡といふは公館内なり
まのつて則持寺の傳云いふ
定利寺宅地 傳云二条北園に
東北洞院といふ

倉通れるはわたりしるは倉の
以仁親の宅地といふ今のは
院の地をわたりしるは
とてまゝなりとていふは
あはれ東西にわたりしるは
の後高倉といふは源家
又云是が死後三月とて
別所といふは源家
早花院といふは源家
とていふは源家
又源家の宅地といふは
と号するは源家
いふは源家の宅地
定利寺宅地 傳云二条北園に
東北洞院といふ

應永四年麻花院義海公は平
と持てにゆづり山麻花と小
源居しゆ又康正三年慈照院
御政にゆづり新館と修造し
たなり花の館と号すまはせしを
乃師本とすなり先かち永承八
年乙丑六月十九日光源院を建
公三ぬがく先に書口しゆは
しゆわけし新館を破壊して終
民衆とすかすなり

麻花院義海公宅地 小倉櫛寺
の地先かち

又云應永十六年十月將軍義海公
山山に重なり居しゆと系は坊に相
しゆたまりしゆと今も
ありしゆなり

慈照院義政公宅地 東山澤王村
慈照院の地

是かち又云宝徳二年三月義政
公弟宅とゆふ山山にありしゆ
山山に二条に車を所しあり又
云西陳ありかちなりしゆ

三好義長宅地 弘治四年四月廿
三日三好ち

此山山に下所しありしゆ
義長公と法振しゆ

細川家宅地 信長元年
細川家宅とす所

是れ柱れ山山に據り又上京
山山に細川公宅の宅地あり今
氏家とありしゆと大心院の所
号す又宝所柳原山山に
細川公宅の宅地ありしゆ俗
ありしゆなりしゆと
月と縁ては義長公宅地

徳吉寺地と宅地として行
けりてあるに京橋北にありけり

山名家宅地

小川通船を此西
山名家宅地

あり船橋川西面北石垣に則山名
宗全の幾代あり今に有る

畠山宅地

今も川通室町通
の西にあり今に有る

畠山此子と云い市ノ室所公方家
此三後徳乃内もけ山氏は下に
住居せりけ地は木立あり井あり
畠山此井と俗に云いけり

斯波家宅

室町家旧地
二年斯波家改行居

と東山東光寺に極とて接するに
東光寺、今此寺を斯波の北東面に
あり今靈山乃住居乃地なり又
一説は東光寺は北の川に有る

武傳家宅地

三条南六角堂乃
武傳家宅地

傳家宅の所は此に住居と云い京
今に於て深徳の地あり一説は
谷川氏此宅地しかりけり又
町通下を賣れ南に武傳氏の所
あり武傳は古室町家三度代乃
内斯波のては下に住居あり

佐藤家宅地

今此通船を此西
とあり通船の方立

いざのまに宅地なりを世に
世人のせむをを交りてり佐藤
室町公方家通船の人あり方事
辨然に人ありけり公方家此の
下よりありけり宅地あり

徳田信雄宅地

西に同院三条北南
今の柳の水乃町南

ともありん後と申す此宅地なり

少三所の名あり一織田常真信雄の
宅地ありて今井柳の水の鉢内を井中
はらまわして湯浴かり干利休の水
と繋いでありて其の水を

古宅地

後園寺跡 東山麓の築地に
あり今も古南畑と

なる農地と場とを以て今に在る
一用を不仕假しの石時におけり
は女所は白川院とて今に在りて
之は後神宗の立あり帝の
女所は美人なくまきとて
仲宗と飛ぶとて今に在り
女所と並あり

玉冠屋敷

一宗院中並に
乃時仍と今に在り
司徳勝院の地はまふけり

忠通屋敷

東麓の村並に
後時川並に
傳えは性寺の通の屋敷なり
此人今も通の屋敷なり
寺塔の跡あり

兼室屋敷

東麓の村並に
地として別荘あり

御所屋敷

東九条にあり
九條家の位あり

相国屋敷

西村院並に
今も在り

清光御宅

中法門通にあり
今も在り

西南に清が納ま位とてこれに跡
あり今ハ民家とては清が納ま位
とては清の厨櫃並に郡里の巡り
あり今ハ民家とては清が納ま位
あり今ハ民家とては清が納ま位

毎に海陽の花とて人々の
郡より京師には中りかき守
資とて宿うゆりこ古花あり

壬午志安宅地 壬午地務院
あり今田畑とてあり

信務宅地 信務宅地あり
と今ハ民家とては清が納ま位
車はあり今ハ民家とては清が納ま位
車はあり今ハ民家とては清が納ま位

ぬののよさおをりさけいり
信務宅地あり今ハ民家とては清が納ま位
信務宅地あり今ハ民家とては清が納ま位
信務宅地あり今ハ民家とては清が納ま位

後見を後 山井おれ里の東南
あり今ハ民家とては清が納ま位
あり今ハ民家とては清が納ま位

白拉居老後 白拉居老後あり
あり今ハ民家とては清が納ま位
あり今ハ民家とては清が納ま位

か亭に於て塔を建てりて庵を之の
菴といふに是ありと云ふなり

虎岡庵

中道五辻にあり
是れ庵の實なる所也

虎岡庵跡のたゞ一標ありといふに
建立のりたゞとて寺公絶てり

不乃者まよと虎岡也まよと云標
かち乃旧記今東福寺海蔵院

安倍清の宅地

あり河原に今も跡あり

通かり寛和二年六月廿二日
花院ひそくに坐出づるを云ふ

かまをぬく清の宅のまよと云ふ
時清明朝也まよのまよと云ふ

一と云ふ天龍皇斗此れ乃ち
一と云ふ是れ乃ち乃ち帝
跡位と云ふなりと云ふに

出づるなり大観のりなり
白く居と云ふなりと云ふ

しと云ふなりと云ふ清の宅
の清明朝也使令と云ふ

禁内と云ふ式神ありと云ふ
あまらりなりと云ふ

花のまよにありと云ふ
まよなりと云ふ清の宅

寺にありと云ふ乃ち乃ち清
の庵也伏見道一の橋の東南

よありと云ふ天文博士大膳
安倍清の別荘なりと云ふ

河余今に在りて標ありと云ふ
激湯なりと云ふ又後者なり

清のり餘流と云ふなり
上者乃清宅 大東三茶は南に
乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち

下あつては嫉むるは埒川の者今
 の余はつては水堂の園白乃を
 呪咀するもこの人若道は神が
 志いごあわこの心どししは後者
 而ぞあふが信明を淋とて
 海を独り合て見せりて
 まてには後乃由る宅上は
 こはよりいして道海とて
松丸殿宅地 西の院通中
 臣秀吉をたててあはして京極
 ちの娘方り秀吉をたてて後
 乃に信しあふては信丸乃
 城中松丸の宅上は信丸の
 乃丸なり也

堀川通三条北南を
 和家もあふ今
 重能は信丸の

茶室の并小の地今あり
将野が宅地 新町通徳之乃
 町は西あり益師
 将野が宅地もえ信つ宅は西あり
 けはし町乃若と今信つは西あり
 え信つ未だ今に信つは西あり
 後信つは西あり信つは西あり
 せり世のちの信つは西あり
 織田信長も京師のありし時一日
 ひそつに信つは西あり信つは西あり
 あひて信つは西あり信つは西あり
 ありし時え信つは西あり信つは西あり
 一のくは信つは西あり信つは西あり
 て信つは西あり信つは西あり
 大かんと信つは西あり信つは西あり
 障のへ信つは西あり信つは西あり
 らしめ又信つは西あり信つは西あり
 信つは西あり信つは西あり

堀川通三条北南を
 和家もあふ今
 重能は信丸の

我も又假らざるべきの者なり
してあり何れも雲なきやわんや
信長公乃本故わの美にわんは
登りてんありんかありたりたり
よ本釣益工此妙ひあねて
思慮も又格別多り感あねて
上京中流ち海を
千利休宅 参りて本をいけ地と

千利休宅

あつたりの利休はまのあねて
此乃今にあり東高今にい
おと伝君しゆる

茶屋宅

新町三条伝友の町
の南にありいあハ
中流惜也と云ふはよあり
登りてんありんかありたりたり
東照神宮ありあひし日志り
は宅は入神ありあまら居考
公大きに神宮の入り海とよつび

伝友乃光宅

あひて市場と池してはるに
あつたりの今にわん八
餘は不水史の難ふあり
神宮能光乃とよふ
新町通三条伝友の町
傳友の町にあり
中流惜也と云ふはよあり
登りてんありんかありたりたり
よ本釣益工此妙ひあねて
思慮も又格別多り感あねて
上京中流ち海を

茶入珠光宅

六条坊の西の地あり
井あり壘井と号すあり
傳友珠光の南にあり
傳友乃光の宅あり
せりる分て懸照院あり

乃湯敷野乃とこのあひて雨
珠光の室よま来時一あり珠光
はさあが并れあつて茶と就じ
ちりもさかり今乃井埴乃石を
織田乃有樂科築あつて西にて
建徳乃石洞もと死を作り歌
付しとこのこもりのはあはとの
茶合のつとひのと煮して汲用
ゆりあひ

松平家楽宅

曰条通東北の院ハ
あり一と茶くれさ
き茶合ありしそ家門よた井
貫松平此井と号すけ水にゆて
清し時くはあを汲て茶合を
たうゆりあひ

針尾宗春宅

上豆賣通宮町の
西にあり宗春は世
りこれるき茶合あり有時を長

はあ廣き室より絶て今南極の
茶くれと餘皆と絶て六祥後
人持深剛

六勝寺

今けも皆絶てあり

▲法勝寺 在り一長後村あり兼曆
元の十二月十八日は堂成徳と白川の
院初を供養ありなまの寺の
傍今坂中の西教寺にあわけいふ
西教寺は勝もれりとも無

▲法勝寺 在り勝もれ西にあり
和四年七月廿一日 堀川院の寺代
此はあり

▲法勝寺 大徳三の三月三日は
侍員内院の寺

▲寂勝寺 在り一勝もれあり

文永元年十一月廿七日供出
 鳥羽院中本殿あり
 成勝寺 保延五年十月廿日供出
 崇徳院の寺あり
 延勝寺 久安五年三月廿日供出
 道清院の寺あり

四季行事

正月

初寅 々々海系泊
 中寅 南林春日社市田植文
 末の夜 芥子くゆり
 終宵 上賀久新燈籠祭
 初卯 日まき日まき四日

築村

山邊北西小川あり徳之
 川あり 築村にあり

井出里

山邊水北南之川へ
 橋乃流石云此別荘に
 ありて水石此跡今にあり
 乃花よりつるあり又井若此
 懸け里北南河内浦あり
 鳴声作不乃懸けりあり

洲濱殿

洲南此北河内あり
 新大納言成親親の
 別荘此あり 亦今に水石
 乃あとの二つあり

水

伏見北南南都徳寺の
 乃にあり徳之川あり
 友此為時錦川別荘にてあり
 又之為河至乃井此別業ハ泉あり
 又ありと云

前より此井ありの如し玉乃舟
此澁あり泉別よりあり

月輪

乃別荘は玉にあり極く二月此
輪の概圖と号す今も亦あり

乃別荘は玉にあり極く二月此
輪の概圖と号す今も亦あり

小倉山

乃地の中へ有る定常山
後後あり

此山は旧池あり今も池あり
建定家此より又後後あり

西中院と云ふ所あり
あつてありと云ふ所あり

納まると号す遊世二条家此邊
墓あり

檀村

乃八條有徳領あり
智仁親王の別荘

墨石

大和田守清川の東あり
いり墨石をいふ

乃別荘は玉にあり今も
右傳領あり

浄土寺

乃別荘は玉にあり今も
浄土寺あり

乃別荘は玉にあり今も
乃別荘は玉にあり今も

乃別荘は玉にあり今も
乃別荘は玉にあり今も

乃別荘は玉にあり今も
乃別荘は玉にあり今も

麻花

乃別荘は玉にあり今も
乃別荘は玉にあり今も

乃別荘は玉にあり今も
乃別荘は玉にあり今も

乃別荘は玉にあり今も
乃別荘は玉にあり今も

け特西をともし池にわたりけり
今に少社あり

今に少社あり
今に少社あり

東の志
神系是れ上栗田の
南にありありけり

けり
けり

西八條
別荘いふあり今日
向ふ泉石れ江あり

向ふ泉石れ江あり
向ふ泉石れ江あり

向ふ泉石れ江あり
向ふ泉石れ江あり

葉室
今に少社あり

上野村
海山原にありあり

けり
けり

雙園
仁和寺にありあり

仁和寺にありあり
仁和寺にありあり

仁和寺にありあり
仁和寺にありあり

双林寺
泰山入道性照と号

泰山入道性照と号
泰山入道性照と号

右巻地

種玉菴

生母味并に和交氏道
人宗祇に味此種玉菴也

傳之東山にありて二流まきこに
にありと志する時人今一宗此菴に

寶珠菴

新立家申此所の在り
是亦味里村紹世の傳

不意と東山女意ふ釈しむるに
ありて寶珠菴と号すやの中長秀

去之河にけ居り入御ありて以て
肥後も清心と号す此時毎夜

依身しなり紹世外門にありて
こころおろそかとして室塔の形と

向くしにわり付し流をせすそあり
一寛文の中の火災に焼失す此の

大皇菴

いふ一室町四條にあり
系人吉光紹世の傳

不かわい居り小隣小えびと此
社あり是にありて京に居り大皇

庵と稱し紹世初乃名に吉田同
極も仲村外吉田信光に苗高

よりありて業道に秀逸の介り
判發の後一閑女吉光紹世の号

ことけし不今氏家にかつ

乃正菴

東北本の下にあり道正
始乃乃乃山隆盤の号

とありて永平も乃乃元和尙に
がひて宋に入籍あり此の二九宗

所と授けてゆかり後今に記で
子孫乃乃業とて解毒あり也

元祖道三あり今に記わせ七代も
亦と續えたりあり其助にあり

妙法菴

山崎宮積あり此菴
東嶽寺あり其院あり

利休時よりあり傳はれに利休
くも不れ一幅畫の系家今に記

を傳ふ者あり

振月庵

いひし西乃山村よりわ
今より西洋より此の
正徹世に徹去光二稱してわあ秀
此れ人ありて意製るがらにれ
乃を衆ありて時世と視るは意
あわとて山科西乃山に執事居り
進けりよは住ゆるかむに徹公東
海も此の住りてわ月庵に居り
修之にまゝ居りてあは振月庵
と号してわがたて東海に切り
徹正庵に被たて此を舞臺にあ
つらとて世人此をもちたり

加元庵

大灯園味大徳寺に住りて
後まゝとて東海に居り
は極め又再び大徳寺に住りて
庵とて遷化しを今かえ庵と名後
はつらとて城に居りて今その
あはとて

景雲庵

左東山双林寺にありてはわ
今より西洋より此の
六月朝鮮人來り約の村に居りて
飯舎とて斯に千代地に給事
とつらとてわたりて

所住地

五位和尚住

高雄神護寺迎
橋院にあり和尚
尾張の國を母とて老時にて
砂石集の地あり

因果庵住

梅畑乃小細河
村にあり

成賢僧住

醍醐山上とて谷
南禅院にあり

後正少納言入信西の子也傳云
生とて入とてもいふ天狗と打て
山にほひにけり灰塵が谷と云

沙行教正住

山法離美の山祇
支寺是がわ中世

ち院廢壞とて以教ハ雁林天
中ノ公名武内の宿禰ノ後胤に
してそを前北國定快しわ八幡と

と山峰ノ國男山ハ勅法でし人
正徹世ハ徹者記し

秋正徹正住

早子稱名を正住

も稱名も始ち夫山にあり
後二条くも先不秋とて或ハ
秋ノ道場く早子迎世寺所
大炊ノ為場同名も此内ノ人
出り正徹和号ノ秀造の人
かりまは山科西ノ山ノ居又
東後とて正住居と

真阿退地

下名羽一合寺也
真阿退ハ後村上院

のり子りて海陽十念寺乃
麻基がわ

道我傳正住

東山法因寺此南中
庭界ハ庭後とて

傳正ハ和名ハ秀造乃名ありて
善好は味つて或ハ常江にまき名と
おとせ地まうも傳祥あり一説ニ
小唐盤尊ハ清水山なりと又云平
尾山がわとて

法橋院聖住

太兼廣隆寺
陽法坊是がわ

は小槻乃坊乃旧地なり今坊ハ是
もあわし竹林とて

心教傳正住

醍醐寺之山の内
寂教台是がわ

松大傳正心教ハ和号乃まき人ハ

トてしるる花乃多と秘せしも
は雨なり

と晴み雨住 始ひく山並みは春又
勝持ちればい後と天哉前と号す

跡方とくも亦れとく共ニ空負
石礎家号今にあり

後通照不住 本はの里向親も
毛がわ宵椒集に

おの末の香ゆりこれとくの泳ゆい
本はの橋れをわけてよりあくと

系石居不住 清水寺の東南竹谷
毛がわ雲外坊は法

院上人の後来して好て隠逸の人
始に碗畑茶提ちれば若にくもま

後し雨より住たすよわ

紀傳不住 東寺に西園寺持
乃地ちとたわ

慈法和尚不住 比叡山東塔の南並
動寺にあり松の下

此月と疎とる亦がわ又山並み
雲もち本堂の後に住居の流る

と雨と湯と中 こと云東山系
山若水は世人の志る亦がわ

西行法師不住 夢塚わく山並
こと乃西の道とる

不れ振あわひ下と居とるもつて住
し傳ること後寺にあり今ま

と宗澄提院地色がわ
又小倉山に三院東南に開竹林

乃内と西の住奄れ波あり又所
田安系秀院乃西南に西の法師

志がく住傳る今ま亦西行も
ありと西の月人の地あり

東心雨居地 西山勝おち東南
柳若くありあり

ちりり今絶てり又今高き北東
旧くは伊豆西へあをさるる言ふ
あわわいあわい言わわて伊那
志づくく信あひし也

休和尚住 休和尚住 兼光里 妙思庵住

右溪和尚住 右溪和尚住 修善寺村の山崎寺 兼光里 妙思庵住

極ち今新院の事なり

自院居士住 自院居士住 東ち兼光里の東 西極と此地なり也

け不流法乃場あり今八津云宗
又又東極と新吟庵の東にあり
居士此中まきわたり南禅寺に
関山大明國師の弟子にて新吟
庵の住持なり居士住

乃庵居士住

良忍上人住 良忍上人住 山本大原本定院 是こは不にて鞍馬

人念佛と修しなり也

法松上人住 法松上人住 始は叡山西塔寺 後にあり又兼光

よも志づくく信あひし也後兼光
居士と兼光ハ今此新院乃地

物住地住 物住地住 兼光里 妙思庵の西 凡車新より住

口世世人なる事あり也

總堂居士住 總堂居士住 兼光里 妙思庵 南無三寺是なり

居士永井信法と高政乃家長小
して兼光依川田共六昌後と号す
此人兼光と好し兼光とたの
士林乃中風流乃人なり

新穀地

高橋様花

清水寺の南の凡葉業

いよよと花のよきと水廻り

月橋花爛熳の時に海中花枝

挽炬の厨と携へて遊覧

時かき又深泉の清冷と新穀

仁和寺様

东山の陽氣和暖

山六西方秋の地をわいぬ

花の開くおそくは春前

の在りて慢暮涼地

清方の御糸竹の曲絶

未開紅

花の赤れ紅梅

あわはけはよとて未開紅

を去初海人の群衆或は

賦一和衣と御

檀瀝瀝

上梨茂南

これ花咲礼

たぐひかき

男女酒合

美性院

東山建仁

未開紅

群集

雲

宗法

勢

は川

高川納涼

毎夜八月七日噴きあり
十日後を西条川納涼

又池よりいづひ多き熱観之面
お此灯火の水より梅りねん
那多床のよりいづむ其此と
淡し酒盆と流と風景言
流しとくひかき

廣澤月

子代の方道は西にわ
いりへり月と廣

とほれお池の西に月人の檀
あり八月十五ちねり流人多り
て極静今を月東山より時
そと池水より梅り或ハ二つと
アし二つとかりこれ萍藻る
まよふくくくむの用かたわ

高尾楓葉

毎秋三尾地尾
の溪間楓葉くし

井と保ふ三秋乃舟流りて
三春東山乃きうくと二双とと
くは京流れ極美くく

通天観音

五月山東福通天
橋下此楓やふ徳不

より毎秋流下此甚上賞
林間より酒と暖乃風景現あり

西山紅葉

西山勝物も世は花の
寺に早守けい山楓樹

一秋にむてると隣都人
ま花の可き多とくす寂實
いづる風景は道邊乃地と
アし門前に放生池ありた本
多入紅葉もよ安作のくはもこ

池子死者集

海西訪安き地
細川勝之守

とくまの大地あり冬にむて鴨
鷺も集る都集水上に

是又海人弄机也

假山地

天龍寺 天龍寺方丈の後縁
不水石れ池あり圓隙天性
水石とありたまふ人而流り地
毎に假山の池とのこせり
約假山と流るるより支流あり
溪縁流し西條流なり
溪流い多悲國呼れ摸龍

勅修寺

勅修寺の真玄宗に
則親と申り池邊に
假山あり堂前此樂山に流る

大通寺

世に尼とていふ假山に
人少長う修學するものあり
と南都春日山中院の假
山とて若う作らるるなり
はるる對して小若と云ふなり
善何人うまらば

修心寺

修心寺の池に水濱あり
想國呼れつらるるなり
世に人れ
南にあり堂前此假山に
多う想れ水石とあり
糸の地なりわねおこれ
寺石怪岩地多とて
画師天性假山とて

大川院 大徳寺の塔院なり
の邊に東山あり

水石とてふなりて観音石虎の以
石なりし様子の奇なるなりけり
糸糸始ハる所なり此水潭也
乃をよりありて後よは院

訪事 海西の持院のあり
は此假山八細川勝元

此奇勝なり人乃石なりあり世
は築山とてころむもの假山
て標格なり

双林寺 東山にあり文に
是又同相あり

水石 大徳寺の南の方面の中
今に假山あり

堀内山は別院にあり
湖水が泉とあり
とては無仁に火にけり

御池 室町二条にあり
二条あり

假山とてふ池水又清冷なり
てかきす其水とては
上秋口あり今に在り
よは回例ありて夏目あり

修学院 法之良隅にあり
後水尾院の別あり

此に方二町の池水あり
殊に清絶なり
葛原の御池あり

勝景地

千光寺七處

- 浪花隈 喜多瀬
- 郡書石 古名松谷
- 觀瀾整地 古名草葉
- 龜蒙山 石門南
- 呼猿喚 古名猿籠
- 鳥船跡 古名鳥船

高室寺七境

- 石水院 花空殿 罪竹安坊
- 三伽禪 定心石 遠跡窟
- 禪堂院
- 法水院 御書閣 究音頂
- 鏡湖池 石門瀑 安氏禪
- 岩下水 銀河泉

康苑寺景

大赤山入園寺

竹林寺七境

- 梵音閣 栴木堂 柿月軒
- 三金院 雲龜山 天討院
- 圓軌 道場 蜜付
- 眞次資

妙光寺七境

- 除魔堂 射神杉 五通廟
- 大徹堂 茶合亭 耳室井
- 宝陀閣 兼多房 坐禪石
- 慈供石

西芳寺七境

- 西本堂 露塔 源陽殿
- 赤雲の寂 磅精
- 清烟 賣良店 縮毛亭
- 合日殿

杉の尾の南あり 善想園吹舟真地

御池景

いみじき所三条の
南よりあり

水の樓 梅香亭 沖相閣

蘇子園 政平水 古来系

緑楊橋 秋田臺 洗足有光

砂灘地

鳥狩の境

今古絶子

安帖菴 清晏齋 政御處

宝雲閣 観音殿 香石亭

徳雨軒 聚星樓 宗鏡堂

八講堂 芙蓉池 万年松

京林二重鐵道三氏

